

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月25日

【事業年度】 第26期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 クオール株式会社

【英訳名】 QoI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中 村 敬

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー37階

【電話番号】 03 - 6430 - 9060

【事務連絡者氏名】 執行役員 財務部長 緒 方 伸 一

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー37階

【電話番号】 03 - 6430 - 9060

【事務連絡者氏名】 執行役員 財務部長 緒 方 伸 一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	100,966	114,363	124,957	131,502	145,516
経常利益 (百万円)	2,208	4,262	6,688	7,065	9,333
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	777	2,155	3,709	4,353	4,986
包括利益 (百万円)	797	2,209	4,038	4,208	5,092
純資産額 (百万円)	17,374	19,152	21,022	21,632	35,935
総資産額 (百万円)	53,904	59,573	69,847	81,290	87,315
1株当たり純資産額 (円)	521.60	557.42	602.36	652.42	936.74
1株当たり当期純利益 金額 (円)	25.11	63.33	107.78	128.35	141.19
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)			100.80	-	130.19
自己資本比率 (%)	31.6	32.1	29.7	26.2	41.2
自己資本利益率 (%)	5.2	11.9	19.5	20.7	17.4
株価収益率 (倍)	26.1	16.0	15.7	12.8	14.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,350	7,841	7,539	5,813	11,116
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	8,383	5,066	3,348	15,392	3,775
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,722	278	4,085	7,435	1,685
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	4,957	8,011	16,287	14,144	19,800
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (人)	3,301 (1,528)	3,651 (1,637)	3,778 (1,572)	4,505 (1,784)	4,678 (1,881)

(注) 1. 売上高に消費税等は含まれておりません。

2. 第22期及び第23期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第25期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 第25期より少額減価償却資産の会計処理を変更したため、第24期については、当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

なお、第23期以前に係る累積的影響額については、第24期の期首の純資産額に反映させております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
決算年月		平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高	(百万円)	80,194	85,653	94,044	93,678	105,212
経常利益	(百万円)	2,073	3,198	4,782	4,256	6,343
当期純利益	(百万円)	908	1,676	2,514	3,203	2,612
資本金	(百万円)	2,828	2,828	2,828	2,828	5,786
発行済株式総数	(株)	33,148,500	35,845,500	35,845,500	35,845,500	38,902,785
純資産額	(百万円)	16,881	18,510	20,438	19,844	32,280
総資産額	(百万円)	47,472	52,708	63,116	74,741	79,701
1株当たり純資産額	(円)	516.91	538.74	592.93	607.34	841.46
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額)	(円) (円)	18 (8)	20 (8)	24 (10)	24 (12)	28 (14)
1株当たり当期純利益 金額	(円)	29.34	49.24	73.06	94.46	73.97
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額	(円)			68.33	-	68.20
自己資本比率	(%)	35.6	35.1	32.4	26.6	40.5
自己資本利益率	(%)	6.1	9.5	13.0	15.9	10.0
株価収益率	(倍)	22.3	20.6	23.1	17.4	28.2
配当性向	(%)	61.3	40.6	32.8	25.4	37.9
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数)	(人)	2,205 (994)	2,477 (1,101)	2,499 (1,098)	2,775 (1,196)	3,112 (1,308)

(注) 1. 売上高に消費税等は含まれておりません。

2. 第22期及び第23期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第26期の1株当たり配当額28円には創業25周年を記念した、記念配当2円を含んでおります。

4. 第25期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

5. 第25期より少額減価償却資産の会計処理を変更したため、第24期については、当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

なお、第23期以前に係る累積的影響額については、第24期の期首の純資産額に反映させております。

2 【沿革】

年月	事項
平成4年10月	医薬品の調剤及び販売を目的として、クオール株式会社を東京都中央区日本橋兜町に設立。
平成7年1月	本社を東京都千代田区三番町に移転。
平成11年7月	本社を東京都千代田区麹町に移転。
平成13年8月	本社を東京都新宿区四谷に移転。
平成15年5月	フェーズオン株式会社設立、治験関連（SMO）事業開始。
平成18年4月	大阪証券取引所ヘラクレス（現 東京証券取引所JASDAQ）に株式を上場。
平成19年1月	第一メディカル株式会社（現メディカルクオール株式会社、現連結子会社）の全株式を取得し子会社化、医療・医薬情報資材制作関連事業開始。
平成19年10月	株式会社エーベルを吸収合併し直営化。吸収合併にともない、株式会社エーベルの親会社であった株式会社メディセオ・パルタックホールディングス（現株式会社メディカルホールディングス）及び三菱商事株式会社が「その他の関係会社」となる。
平成20年12月	クオールメディス株式会社設立、労働者派遣・紹介事業開始。
平成21年2月	クオールアシスト株式会社（現連結子会社）設立、社内業務代行事業開始。
平成22年6月	本社を東京都港区虎ノ門に移転。
平成23年12月	当社の公募増資による新株式発行により、三菱商事株式会社の所有株式数50,244株に対する議決権比率は新株式発行前の20.30%から19.36%に低下し、「その他の関係会社」に該当しなくなる。
平成23年12月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
平成24年3月	大阪証券取引所JASDAQ（現 東京証券取引所JASDAQ）の上場廃止。
平成24年10月	アポプラスステーション株式会社（現連結子会社）の全株式を取得し子会社化。
平成24年12月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定。
平成25年4月	会社分割（新設分割）による中間持株会社、クオールSDホールディングス株式会社設立。
平成25年4月	100%出資子会社のアポプラスステーション株式会社（現連結子会社）の調剤事業を吸収分割。
平成25年4月	クオールメディス株式会社はクオールアカデミー株式会社に商号変更。
平成25年8月	当社連結子会社である株式会社レークメディカルの発行済株式44.44%を株式交換により取得し100%子会社化。
平成26年7月	100%出資子会社のクオールSDホールディングス株式会社のクオールアカデミー株式会社及びフェーズオン株式会社の経営管理に関する事業を吸収分割。
平成26年8月	100%出資子会社のクオールアカデミー株式会社及びフェーズオン株式会社を吸収合併。
平成26年10月	当社連結子会社である株式会社セントフォローカンパニーの発行済株式47.85%を株式交換により取得し100%子会社化。
平成28年10月	株式会社共栄堂（現連結子会社）の全株式を取得し、子会社化。
平成28年10月	中間持株会社、クオールSDホールディングス株式会社を吸収合併。

3 【事業の内容】

企業集団の状況

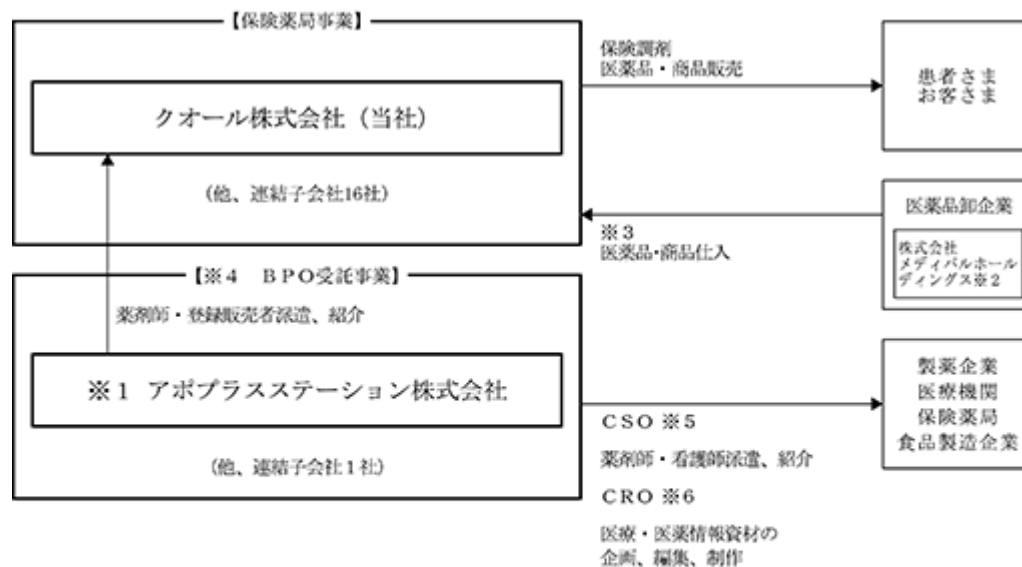
当社グループは、クオール株式会社（当社）、連結子会社18社、非連結子会社1社及びその他の関係会社1社より構成され、保険薬局事業、BPO受託事業を営んでおります。

当社グループの事業内容と当社及び関係会社の当該事業に係る位置づけは、次のとおりであります。

なお、次の2事業は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

[事業系統図]

事業の系統図は次のとおりであります。



- ※1 連結子会社
- ※2 その他の関係会社（株式会社メディカルホールディングスは有価証券報告書提出会社であります）
- ※3 メディカルホールディングスグループ会社との医薬品・商品仕入取引を含みます。
- ※4 BPO（Business Process Outsourcingの略）
- ※5 CSO（Contract Sales Organizationの略）
- ※6 CRO（Contract Research Organizationの略）

(1) 保険薬局事業

当社及び連結子会社16社は保険薬局又は病院内売店等の経営を行っております。

(2) BPO受託事業

アポプラスステーション株式会社を含む、3社（非連結子会社1社含む。）でCSO事業、派遣・紹介事業等の医療周辺事業、CRO事業を行っております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 [被所有]割合 (%)	関係内容
(連結子会社) アボプラスステーション 株式会社	東京都中央区	438	BPO受託 事業	100.0	当社役員の兼任 資金借入(CMS) 従業員の出向
その他17社					
(その他の関係会社) 株式会社メディパルホー ルディングス(注)3	東京都中央区	22,398	医薬品、化粧 品・日用品等 卸売業	[22.3] (2.8)	医薬品他の仕入先

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。
 2. 「議決権の所有[被所有]割合」欄の()内は、間接所有割合で内数であります。
 3. 有価証券報告書の提出会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
保険薬局事業	3,900 (1,764)
BPO受託事業	705 (103)
全社(共通)	73 (14)
合計	4,678 (1,881)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含んでおります。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
3,112 (1,308)	35.0	5.6	4,769

セグメントの名称	従業員数(人)
保険薬局事業	3,039 (1,294)
全社(共通)	73 (14)
合計	3,112 (1,308)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含んでおります。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
4. 前事業年度末に比べ、従業員数が337名増加しております。主な理由は、業容の拡大に伴い採用が増加したこと及び吸収合併をしたことによるものであります。

(3) 労働組合の状況

企業内労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好であります。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループでは「わたしたちは、すべての人の、クオリティ オブ ライフに向きあいます。いつでも、どこでも、あなたに。」を企業理念とし、「あなたの、いちばん近くにある安心」をスローガンとして掲げ、患者さまのQOL向上に役立つ医療サービスを提供することを基本方針としております。

また、当社グループの全役職員は、コンプライアンスの精神に則り、各種法令、規則等の遵守、自律的に何が倫理的に正しい行為かを考え、その価値判断に基づき行動いたします。

(2) 目標とする経営指標

資本効率を重視する連結業績管理制度を採用し、自己資本利益率（ROE）や総資産利益率（ROA）を基準とした経営管理を行っております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、経営戦略として「4C」を掲げ、「Change」「Continue」「Challenge」「Compliance」に取り組み、さらなる成長を目指しております。また、業界内における競争が一段と激化する中で安定した収益基盤を確保するために、グループ各社で経営戦略を共有し相乗効果を発揮するとともに、最適な事業ポートフォリオを実現してまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

保険薬局業界は、超高齢社会の到来とともに医療費抑制のための対応政策が展開される中、国民・患者さまが望む安心・安全かつ良質な医療サービスの充実、地域ニーズを反映した在宅医療等さらなる医療連携の強化が求められると予想しております。

このような状況の下、当社グループは以下の基本戦略に基づき、持続的な成長を遂げる経営基盤の進化を目指してまいります。

成長と収益の確保

グループシナジーの追求

組織のスリム化

新事業の創出

コンプライアンス遵守

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 法的規制等について

a. 当社グループの行う事業について

当社グループにおける保険薬局事業及びBPO受託事業では、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下、医薬品医療機器等法）」、「健康保険法」、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律」等の法令による規制を受けております。各都道府県等の許可・登録・指定・免許を受けることができない場合、関連する法令に違反した場合、または法令が改正された場合等において、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

b. 薬剤師の確保について

保険薬局業務においては、「薬剤師法」第19条に基づき薬剤師以外の調剤が禁じられております。また、薬局、店舗販売業及び配置販売業の業務を行う体制を定める省令に基づき、1日平均取扱処方箋40枚に対して1人の薬剤師を配置する必要がある旨定められております。

このため、新規採用者数の減少・退職者数の増加などにより薬剤師の必要人数が確保できない場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 保険薬局の事業環境について

a. 医薬分業の動向について

医薬分業は、医療機関と保険薬局がそれぞれ専門分野で業務を分担し、国民医療の質の向上を図ろうとするものであり、国の政策として推進されてきました。今後、動向が変化する場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

b. 薬価改定及び診療報酬改定について

調剤売上は、薬剤料収入と技術料収入から成り立っており、薬価及び診療報酬は厚生労働省により定められております。また、薬価及び診療報酬は、国民医療費を抑制するため、段階的に改定されております。今後、薬価及び診療報酬改定が行われ、薬価及び診療報酬の点数等が変更になった場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 新規出店政策について

当社グループは、当連結会計年度末現在、718店舗を運営しております。最近の当社グループの業容拡大には、店舗数の拡大が大きく寄与しております。

今後とも買収を含めて店舗数の拡大を図っていく方針ではありますが、当社グループの出店条件に合致する新規案件を確保できないことにより計画どおりに出店できない場合には当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 資金調達について

当社グループの事業資金の一部は、金融機関からの借入により調達しております。このため、景気の後退、金融市場の悪化、金利の上昇、当社グループの信用力の低下、業績の見通しの悪化等の要因により、当社グループが望む条件で適時に資金調達を行えない可能性があります。万一当社グループが今後資金調達を望ましい条件で実行できない場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 調剤過誤について

当社グループでは、調剤過誤を防止するために、社内教育を徹底し、加えて、調剤過誤防止システムの導入や社内イントラネットにおいて実績を収集し、様々な対策を講じております。しかし、調剤過誤が発生し、訴訟を受けて多額の損害賠償の支払いや、それに伴う社会的信用を損なうことがあった場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 個人情報の利用・管理について

当社グループは、業務上多くの個人情報を保有しておりますが、その管理は適切に行っております。当社では平成17年4月の「個人情報保護法」の施行にあわせて、個人情報保護に関する当社の基本方針を明確化した「個人情報保護方針」及び個人情報取扱いに関する基本事項を定めた「個人情報保護基本規程」を制定して、個人情報の保護について十分注意し漏洩防止に努めております。万一個人情報が漏洩した場合、当社グループの社会的信用は低下し、損害賠償責任が生じ、当社グループの業績等に影響を与える可能性があります。

(7) 消費税等の影響について

保険薬局事業においては、社会保険診療に係わる調剤売上は消費税法上非課税となる一方、医薬品等の仕入は同法において課税されております。このため、当社グループ内の保険薬局事業会社は、消費税等の最終負担者となっており、仕入先に支払った消費税等は、売上原価に計上されております。

過去の消費税等の導入時及び消費税率改定時には、消費税率の上昇分が薬価の改定において考慮されておりましたが、今後、消費税率が改定され、その影響が薬価に反映されなかった場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(8) のれんの減損について

当社グループは、M & A等により事業拡大を図ることを経営戦略として推進しております。M & A等においては、将来にわたり安定的な収益力を確保できることを十分に検討し買収しておりますが、将来、計画どおりに収益を確保出来ない場合にはのれんに係る減損損失が発生し、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 知的財産権について

当社グループが各種サービスを展開するにあたっては、他者の持つ特許権、商標権等の知的財産権を侵害しないよう細心の注意を払っておりますが、万一、他者の知的財産権を侵害した場合には、多額の損害賠償責任を負う可能性があります。

また、当社グループの持つ知的財産権を侵害されないよう細心の注意を払っておりますが、他者からの侵害を把握しきれない、もしくは適切な対応ができない場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(10) その他の規制について

当社グループが各種サービスを展開する上で、「医薬品医療機器等法」による広告の制限等の規制、または公正取引委員会による「医療用医薬品製造業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約」等の医薬品業界特有の各種規制には特段の注意を払っております。

今後においても、各種規制については十分に留意して事業運営を行う方針ですが、業界の様々な動きに対して、法令や業界団体による規制等の改廃、新設が行われる可能性があります。これら新たな動きに当社グループが何らかの対応を余儀なくされた場合や、当社グループがこれらに対応できない場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 災害等について

事業展開している地域において、予期せぬ火災、テロ、戦争、疫病、地震、異常気象等により、店舗の損壊、店舗への商品供給の停止及びその他店舗の営業継続に支障をきたす事態が発生した場合、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般的に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、見積りが必要になる事項につきましては、合理的な基準にもとづき、会計上の見積りを行っております。

詳細については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。

また、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績等の状況

当連結会計年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）におけるわが国経済は、企業収益、雇用・所得環境の着実な改善が見られ、緩やかな回復基調を続けております。

保険薬局業界においては、かかりつけ薬剤師・薬局の推進や健康サポート薬局の展開が求められ、薬剤師の業務は、対物業務から対人業務へ移行してきております。また、ドラッグストアの調剤併設店の拡大等により、競争が一段と激化してきております。

当社グループは、保険薬局事業とBPO受託事業の2つの事業を収益の柱としており、保険薬局事業においては、「あなたの、いちばん近くにある安心」（スローガン）を掲げ、かかりつけ薬剤師・薬局として地域社会の信頼獲得をめざした人財育成と薬局運営に注力してまいりました。また、「選ばれつづける薬局への挑戦」（経営ビジョン）として、「街ナカ」「駅チカ」「駅ナカ」のさまざまな業態の薬局を、異業種連携を含め展開しております。さらに、かかりつけ薬剤師・薬局としての機能に加えて、OTC医薬品の充実、健康相談の実施等を行い、健康サポート薬局の展開を進めております。また、第2の柱である収益性が高いBPO受託事業の収益拡大を進め、ポートフォリオ最適化を図っております。

このような環境のもと、当連結会計年度における当社グループ連結業績は、売上高145,516百万円（前年同期比10.7%増加）、営業利益9,091百万円（前年同期比32.4%増加）、経常利益9,333百万円（前年同期比32.1%増加）、親会社株主に帰属する当期純利益4,986百万円（前年同期比14.5%増加）となりました。

また、当連結会計年度末の資産合計は、87,315百万円となり、前連結会計年度末から6,024百万円増加しております。

これは主に、現金及び預金が5,646百万円、受取手形及び売掛金が854百万円、工具、器具及び備品が415百万円、投資有価証券が118百万円、繰延税金資産が99百万円増加した一方、のれんが1,442百万円減少したことによるものであります。

当連結会計年度末の負債合計は、51,379百万円となり、前連結会計年度末から8,278百万円減少しております。

これは主に、社債が10,530百万円減少した一方、未払法人税等が878百万円、買掛金が638百万円、1年内返済予定の長期借入金が266百万円増加したことによるものであります。

当連結会計年度末の純資産合計は、35,935百万円となり、前連結会計年度末から14,303百万円増加しております。

これは主に、資本剰余金が4,123百万円、利益剰余金が4,107百万円、自己株式の処分により3,355百万円、資本金が2,958百万円増加したことによるものであります。

セグメント別の財政状態及び経営成績は、次のとおりであります。

BPO：Business Process Outsourcingの略

a. 保険薬局事業

当連結会計年度において、出店状況は、新規出店21店舗、子会社化による取得14店舗の計35店舗（うち売店1店舗）増加した一方、閉店により13店舗（うち売店3店舗）減少した結果、当社グループ全体で店舗数は718店舗となりました。売上高については、新店及び新規取得子会社が業績に寄与いたしました。加えて、かかりつけ薬剤師・薬局の推進やジェネリック医薬品の使用促進により、調剤技術料の収入が増加しました。また、適正な在庫管理と医薬品調達コストのコントロールのため、新在庫システムを全店に導入しました。さらに、顧客満足度向上、業務の効率化のための積極的な設備投資を実施しました。

その結果、売上高は前年同期比14,488百万円増加し135,084百万円（前年同期比12.0%増加）、営業利益は前年同期比2,490百万円増加し8,652百万円（前年同期比40.4%増加）となりました。

また、当連結会計年度末の資産合計は、81,062百万円となり、前連結会計年度末から5,505百万円増加しております。

当社グループの属する保険薬局業界においては、薬価改定及び診療報酬改定が行われ、薬価及び診療報酬の点数等が変更になった場合や関連する法令が改正された場合等において、業績等に影響を及ぼす可能性があります。

詳細については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

b. BPO受託事業

当連結会計年度において、アポプラスステーション株式会社の中核事業であるCSO事業は、MR派遣の競争が激化する中、業界最多の契約社数を維持しております。また、新規顧客の開拓及び既存案件の契約延長に向けて、専門性の高いMRの育成や製薬企業への営業強化に取り組んでまいりました。派遣紹介事業については、薬剤師等の派遣者数が伸び、計画を上回る結果となりました。また、新たな営業拠点を開設し、事業の拡大を図っております。CRO事業においては、案件の受注数が伸び悩んだものの、今後の営業力強化に向け、体制を整備しております。

その結果、売上高は前年同期比474百万円減少し10,431百万円（前年同期比4.3%減少）、営業利益は前年同期比157百万円減少し1,341百万円（前年同期比10.5%減少）となりました。

また、当連結会計年度末の資産合計は、7,343百万円となり、前連結会計年度末から451百万円増加しております。

当社グループが行うBPO受託事業の運営においては、法令による規制を受けており、各都道府県等の許可・登録・指定・免許を受けることができない場合や関連する法令に違反した場合、または法令が改正された場合等において、業績等に影響を及ぼす可能性があります。

詳細については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

CSO：Contract Sales Organizationの略

CRO：Contract Research Organizationの略

(2) 販売、処方箋応需の実績

a. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		金額(百万円)	構成比(%)	前年同期比(%)
保険薬 局事業	薬剤に係る収入	93,581	64.3	12.0
	調剤技術に係る収入	30,400	20.9	15.4
	一般薬等売上	11,102	7.6	4.0
	小計	135,084	92.8	12.0
BPO受託事業		10,431	7.2	4.3
合計		145,516	100.0	10.7

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 処方箋応需実績

当連結会計年度における保険薬局事業の処方箋応需実績は、次のとおりであります。

処方箋応需枚数(千枚)	前年同期比(%)
13,084	12.1

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが11,116百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが3,775百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが1,685百万円の支出となりました。この結果、当連結会計年度の現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ5,656百万円増加し19,800百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前当期純利益8,411百万円及びのれん償却額2,340百万円等により、11,116百万円の収入(前年同期5,813百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,816百万円及び有形固定資産の取得による支出1,628百万円等により、3,775百万円の支出(前年同期15,392百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入れによる収入7,000百万円及び長期借入金の返済による支出7,152百万円、社債の償還による支出1,330百万円等により、1,685百万円の支出(前年同期7,435百万円の収入)となりました。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性につきましては、次のとおりであります。

当社グループの運転資金需要のうち主なものは商品の仕入のほか、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資、新規出店及びM&A等によるものであります。

当社グループは、事業運営上必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。また、多額な資金需要が発生した場合にはエクイティファイナンス等による調達手段を検討し対応することを基本としております。

4 【経営上の重要な契約等】

当社（平成30年10月1日付（ ）で「クオールホールディングス株式会社」に商号変更予定）は、平成29年10月31日開催の取締役会において、同日付で新たに設立した当社の100%子会社であるクオール分割準備株式会社（平成30年10月1日付（ ）で「クオール株式会社」に商号変更予定）（以下、「分割準備会社」又は「承継会社」といいます。）を承継会社とし、平成30年10月1日（ ）を効力発生日として会社分割（吸収分割）を行うことにより、持株会社体制へ移行することを決議し、承継会社との間で吸収分割契約を締結しました。なお、平成29年12月1日開催の当社臨時株主総会において関連議案の承認を受けました。

会社分割の概要は次のとおりであります。

（１）会社分割の目的

平成29年9月21日に公表した「持株会社体制への移行に関するお知らせ」のとおり、当社グループは、保険薬局の出店を加速させると共に、新事業の創出、海外事業の展開も視野に入れたさらなる成長を目指しております。今後、中長期的な企業価値向上を図り、持続的な成長を実現するために、持株会社体制に移行することを決定いたしました。

持株会社体制へ移行することで、（１）グループ経営戦略推進機能の強化、（２）権限と責任の明確化による意思決定の迅速化、（３）コンプライアンス管理体制を重視したコーポレートガバナンスの強化、（４）グループシナジーの最大化を目指してまいります。

（２）会社分割の方式

当社を分割会社とし、平成29年10月31日付で新たに設立した完全子会社である分割準備会社を承継会社とする吸収分割により行います。

（３）会社分割の効力発生日

平成30年10月1日(予定)（ ）

（４）分割に際して発行する株式及び割当株式数の算定根拠

a. 割当株式数

当社に分割準備会社の株式5,400株を割当交付いたします。

b. 割当株式数の算定根拠

承継会社は当社の完全子会社であることから、当社内で決定いたしました。

c. 第三者機関による算定結果、算定方式及び算定根拠

当社は承継会社である分割準備会社の完全親会社であるため、第三者機関への割当株式数に関する意見を求めておりません。

(5) 分割する資産、負債の項目及び帳簿価格(平成29年3月31日現在)

資産		負債	
項目	帳簿価格	項目	帳簿価格
流動資産	21,437百万円	流動負債	22,706百万円
固定資産	20,360百万円	固定負債	17,500百万円
合計	41,797百万円	合計	40,206百万円

(注) 上記金額は、平成29年3月31日現在の貸借対照表を基準として算出しているため、実際に承継される金額は、上記金額に効力発生日までの増減を調整した数値となります。

(6) クオール分割準備株式会社(平成30年10月1日付()で「クオール株式会社」に商号変更予定)の概要

代表者の役職・氏名: 代表取締役社長 中村 敬

所在地: 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー37階

資本金: 30百万円

事業内容: 保険薬局事業、コンビニエンスストアを含む売店事業及びそれらに付随する事業

業績: 純資産 30百万円

総資産 30百万円

(注) 承継会社におきましては、直前事業年度が存在しないため、その設立の日における概要を表記しておりません。

() 平成30年1月31日付で、会社分割効力発生日を「平成30年4月1日(予定)」から「平成30年10月1日(予定)」に延期しております。なお、会社分割の効力発生日延期に伴い、定款変更(商号変更及び目的の変更)の効力発生日も延期となります。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の主な設備投資は、建物、土地等の店舗設備等であり、設備投資の総額は3,652百万円であります。なお、有形固定資産のほか、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

保険薬局事業においては、新規出店21店舗、子会社化による取得14店舗が加わり、計35店舗の出店等に総額3,582百万円の投資を実施しました。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (店舗数又は所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物 及び構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
北海道地区 (10店舗)	保険薬局事業	店舗設備	58	12	132 (1,800.90)	2	206	49
東北地区 (67店舗)	保険薬局事業	店舗設備	542	171	169 (3,830.38)	-	884	273
関東地区 (265店舗)	保険薬局事業	店舗設備	1,498	832	620 (6,139.06)	1	2,951	1,254
中部地区 (56店舗)	保険薬局事業	店舗設備	603	126	127 (3,905.42)	-	856	238
近畿地区 (81店舗)	保険薬局事業	店舗設備	666	170	1,064 (3,637.18)	0	1,902	427
中国地区 (38店舗)	保険薬局事業	店舗設備	184	70	30 (704.57)	-	285	128
四国地区 (13店舗)	保険薬局事業	店舗設備	115	25	11 (288.00)	-	152	57
九州地区 (9店舗)	保険薬局事業	店舗設備	177	36	36 (399.64)	0	251	37
本社 (東京都港区)	全社(共通)	事務所	54	40	-	20	114	73

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
2. 帳簿価額の「その他」は、建設仮勘定は含んでおりません。

(2) 国内子会社

アポプラスステーション株式会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (店舗数又は所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物 及び構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (東京都中央区)	BPO 受託事業	事務所	20	7	-	-	28	690

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
2. 帳簿価額の「その他」は、建設仮勘定は含んでおりません。

リース契約による主要な賃借設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

会社名	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)	契約残額 (百万円)
クオール株式会社	保険薬局事業	店舗設備	22	927

(注) 年間リース料は消費税等抜き、契約残額は消費税等込みで表示しております。

(2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)	契約残額 (百万円)
アポプラスステーション株式会社	BPO受託事業	事務所	82	-

(注) 年間リース料は消費税等抜き、契約残額は消費税等込みで表示しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループの当連結会計年度末における重要な設備の投資計画は次のとおりであります。

会社名又は 事業所名	セグメントの 名称	所在地	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)	
提出会社	保険薬局事業	関東地区 (4店舗)	店舗の新規開発	225	61	自己資金
提出会社	保険薬局事業	近畿地区 (1店舗)	店舗の新規開発	63	-	自己資金
合計				288	61	-

(注) 1. 上記投資予定金額には敷金及び保証金を含んでおりません。

2. 金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却及び売却等

平成30年3月31日現在における重要な設備の除却及び売却の計画につきましては、該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	38,902,785	38,902,785	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株であります。
計	38,902,785	38,902,785		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

	第4四半期会計期間 (平成30年1月1日から 平成30年3月31日まで)	第26期 (平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで)
当該期間に権利行使された当該行使価額修正条項付新株 予約権付社債券等の数(個)		100
当該期間の権利行使に係る交付株式数(株)		5,558,700
当該期間の権利行使に係る平均行使価額等(円)		1,884
当該期間の権利行使に係る資金調達額(百万円)		474
当該期間の末日における権利行使された当該行使価額修 正条項付新株予約権付社債券等の数の累計(個)		100
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予 約権付社債券等に係る累計の交付株式数(株)		5,558,700
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予 約権付社債券等に係る累計の平均行使価額等(円)		1,884
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予 約権付社債券等に係る累計の資金調達額(百万円)		474

(注) 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債は、平成29年11月21日に全ての権利行使が完了しております。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年6月17日 (注)1	5,700,000	31,936,800	1,497	2,623	1,497	2,282
平成25年7月18日 (注)2	779,600	32,716,400	204	2,828	204	2,487
平成25年8月1日 (注)3	432,100	33,148,500		2,828		2,487
平成26年10月1日 (注)4	2,697,000	35,845,500		2,828		2,487
平成29年4月1日 ～平成29年11月21日 (注)5	3,057,285	38,902,785	2,958	5,786	2,958	5,445

- (注) 1. 公募増資 発行価格 548円 発行価額 525.4円 資本組入額 262.7円
 2. 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)
 発行価格 525.4円 資本組入額 262.7円 割当先 S M B C 日興証券株式会社
 3. 当社の連結子会社である株式会社レークメディカルとの株式交換の実施に伴う新株式発行による増加であります(交換比率 1:2,160.5)。
 4. 当社の連結子会社である株式会社セントフォローカンパニーとの株式交換の実施に伴う新株式発行による増加であります(交換比率 1:930)。
 5. 転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		31	25	50	170	4	3,440	3,720	
所有株式数 (単元)		47,020	4,462	129,425	125,348	75	82,632	388,962	6,585
所有株式数 の割合(%)		12.08	1.14	33.26	32.22	0.01	21.24	100.0	

(注) 自己株式686株は、「個人その他」に6単元、「単元未満株式の状況」に86株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社メディopalホールディングス	東京都中央区八重洲二丁目7番15号	7,582,800	19.49
ジェーピー モルガン チェース バ ンク 380634 (常任代理人 株 式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南二丁目15-1 品川イン ターシティA棟)	2,393,600	6.15
ビービーエイチ フォー ファイデリテ イ ロープライズド ストック ファ ンド(プリンシパル オール セク ター サポートフォリオ)(常任代 理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号 決済事業部)	1,864,700	4.79
中村 敬	東京都練馬区	1,629,000	4.18
株式会社ローソン	東京都品川区大崎一丁目11番2号	1,311,800	3.37
第一三共株式会社	東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号	1,304,000	3.35
クオール従業員持株会	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー37階	1,217,029	3.12
株式会社トリム	兵庫県神戸市中央区磯辺通三丁目1番7号	1,104,000	2.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	974,000	2.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会 社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	867,400	2.22
計		20,248,329	52.04

- (注) 1. 上記のほか、自己株式686株があります。
2. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日に株式会社三菱UFJ銀行に商号変更されております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,895,600	388,956	
単元未満株式	普通株式 6,585		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	38,902,785		
総株主の議決権		388,956	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、クオール従業員持株会専用信託口名義の株式539,500株が含まれております。また、「議決権の数(個)」欄には、同名義の完全議決権株式に係る議決権の数5,395個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
クオール株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー37階	600		600	0.00
計		600		600	0.00

(注) 自己名義所有株式数には、クオール従業員持株会専用信託口名義の株式539,500株(議決権の数 5,395個)を含めておりません。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、従業員に対する中長期的な企業価値向上へのインセンティブの付与を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

a. 従業員株式所有制度の概要

当社は、平成28年7月28日開催の取締役会決議に基づき、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)」(以下、「本プラン」といいます。)を導入しております。

本プランは、「クオール従業員持株会」(以下、「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。本プランでは、当社が信託銀行に「クオール従業員持株会専用信託」(以下、「従持信託」といいます。)を設定し、その設定後5年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を予め取得します。その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当社株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。なお、当社は、従持信託が当社株式を取得するための借入に対し保証することになるため、当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、保証契約に基づき、当社が当該残債を弁済することになります。

- b. 従業員持株会に取得させる予定の株式の総額
1,125百万円
- c. 当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲
受益者適格要件を充足する持株会会員

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	66	102,564
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(新株予約権の権利行使)	2,501,415	4,557		
保有自己株式数	686		686	

(注) 1. 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。
2. クオール従業員持株会専用信託口名義の株式539,500株は、上記の保有自己株式数には含めておりません。

3 【配当政策】

当社グループの配当につきましては、今後の事業展開や経営基盤強化のための内部留保を考慮しつつ、株主の皆さまに対し、安定した利益還元を継続的に実施することを基本方針としております。

当社グループの剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本方針とし、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。なお、当連結会計年度の期末配当金につきましては、平成30年5月15日開催の取締役会において、1株当たり12円の普通配当に加え、創業25周年を記念しまして2円の記念配当を実施することを決議いたしました。また、毎年3月31日又は9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対して、金銭による剰余金の配当を行う旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年10月31日 取締役会決議	478	14
平成30年5月15日 取締役会決議	544	14

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	933	1,278	2,267	1,727	2,475
最低(円)	515	539	992	1,206	1,456

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	平成29年11月	平成29年12月	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月
最高(円)	2,124	2,372	2,286	2,271	2,475	2,315
最低(円)	1,889	2,072	2,033	2,014	2,112	1,951

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状況】

男性12名 女性2名 (役員のうち女性の比率14.29%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長 CEO (代表取締役)		中村 勝	昭和17年10月4日	昭和36年4月 中川安(株)(現アルフレッサ(株))入社 平成4年10月 当社設立 代表取締役社長就任 平成24年5月 一般社団法人日本保険薬局協会 会長就任 平成25年4月 一般財団法人東京薬科大学附属社会医療研究所 教授(非常勤)就任(現任) 平成27年5月 横浜薬科大学 客員教授就任 平成28年6月 当社代表取締役会長CEO就任(現任)	(注) 6	644,500
取締役社長 COO (代表取締役)		中村 敬	昭和45年1月19日	平成4年4月 第一製薬(株)(現第一三共(株))入社 平成13年10月 当社入社 平成15年6月 取締役就任 社長室長 平成16年10月 開発本部長 平成17年6月 常務取締役就任 平成19年6月 代表取締役副社長就任 平成28年6月 代表取締役社長COO就任(現任) クオールSDホールディングス(株) 代表取締役社長就任 アボプラスステーション(株) 代表取締役会長就任	(注) 6	1,629,000
専務取締役		岡村 章二	昭和33年6月17日	昭和56年4月 (株)マツモトキヨシ入社 昭和56年5月 薬剤師名簿登録 昭和57年11月 薬日本堂(株)入社 平成10年12月 当社入社 平成16年4月 執行役員就任 平成17年6月 取締役就任 平成18年11月 (株)福聚 代表取締役社長就任 平成19年6月 当社常務取締役就任 平成21年4月 薬局事業本部長 平成23年6月 専務取締役就任(現任)	(注) 6	26,800
常務取締役		福満 清伸	昭和43年5月16日	平成3年4月 (株)第一勧業銀行(現(株)みずほ銀行)入行 平成14年9月 当社入社 平成17年4月 執行役員就任 平成20年4月 上席執行役員就任 管理本部長 平成21年6月 取締役就任 平成25年4月 経営戦略本部長 兼 事業戦略部長 平成26年4月 経営戦略本部長 平成26年6月 常務取締役就任(現任)	(注) 6	57,100
常務取締役	開発 本部長	井村 光雄	昭和33年10月12日	昭和61年9月 台糖ファイザー(株)(現ファイザー(株))入社 平成5年2月 第一製薬(株)(現第一三共(株))入社 平成19年3月 当社入社 社長室 部長 兼 薬局管理本部 部長 平成20年4月 執行役員就任 平成22年4月 上席執行役員就任 薬局企画運営本部長 平成23年6月 取締役就任 平成24年4月 開発本部長(現任) 平成24年11月 (株)モリヤマ(現琉球クオール(株))代表取締役社長就任 平成27年10月 当社ブランディング部長 平成28年6月 常務取締役就任(現任)	(注) 6	13,500

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		恩地 ゆかり	昭和37年7月26日	昭和62年6月 薬剤師名簿登録 昭和63年1月 東京掖済会病院入職 平成5年3月 当社入社 平成16年4月 執行役員就任 内部監査室長 平成20年4月 上席執行役員就任 平成21年10月 (株)福聚 代表取締役社長就任 平成23年4月 (株)医療総合研究所 代表取締役社長就任 平成24年4月 当社薬局支援本部長 平成25年4月 クオールアカデミー(株) 代表取締役社長就任 平成26年4月 当社薬局支援第二本部長 兼 教育研修部長 兼 C S 推進部長 平成26年6月 取締役就任(現任) 平成26年10月 薬局支援第二本部長 兼 クオールアカデミー部長 平成27年4月 薬局支援本部長 兼 クオールアカデミー・教育研修部長 平成27年10月 セルフメディケーション推進部長	(注) 6	32,400
取締役		荒木 勲	昭和41年11月15日	平成4年4月 赤井薬局入社 平成4年6月 薬剤師名簿登録 平成8年2月 当社入社 平成14年4月 埼玉支店長 平成16年4月 執行役員就任 東京第二支店長 平成23年4月 上席執行役員就任 薬局事業本部長 兼 薬局事業本部N C C 事業部長 平成25年4月 鈴木薬品(株) 代表取締役社長就任 平成26年4月 当社薬局支援第一本部長 平成26年5月 たちばな薬局(株) 代表取締役社長就任 平成27年4月 当社東日本支社長 平成28年6月 (有)みらい 代表取締役就任 当社取締役就任(現任)	(注) 6	40,289
取締役	経営企画 本部長	石井 孝芳	昭和36年10月26日	昭和60年4月 塩野義製薬(株)入社 平成26年6月 当社入社 経営戦略本部 副本部長 平成26年10月 経営企画部長 平成27年4月 執行役員就任 経営戦略本部長 平成28年4月 経営企画本部長(現任) 平成28年10月 上席執行役員就任 平成29年6月 取締役就任(現任)	(注) 6	827
取締役		阿部 安孝	昭和37年5月1日	昭和61年4月 第一製薬(株)(現第一三共(株))入社 平成9年3月 薬剤師名簿登録 平成25年4月 アポプラスステーション(株)入社 代表取締役社長就任(現任) 当社取締役就任(現任) 平成30年4月 日本C S O協会会長就任(現任)	(注) 6	3,200
取締役		網岡 克雄	昭和31年10月9日	昭和55年4月 (株)三和化学研究所入社 昭和55年8月 薬剤師名簿登録 昭和59年3月 国立名古屋病院(現国立病院機構名古屋医療センター)入職 平成5年4月 同病院 薬剤科製剤室長 兼 薬歴管理室長 平成7年4月 厚生省(現厚生労働省)薬務局安全課 医薬品適正使用推進指導係長 平成9年10月 同省 保健局医療課医療指導監査室 特別医療指導監査官 平成11年4月 国立静岡病院(現国立病院機構静岡医療センター)薬剤科 副薬剤科長 平成12年4月 スイショー薬局(株)(現(株)ミック)入社 スイショー薬局 調剤センター部長 平成16年4月 金城学院大学消費生活科学研究所 助教授就任 平成19年4月 同大学薬学部 教授就任(現任) 平成27年6月 当社社外取締役就任(現任)	(注) 6	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		窪木 登志子	昭和35年2月26日	昭和62年4月 弁護士登録 山崎法律特許事務所入所 平成5年4月 大野・窪木法律事務所開設 平成14年2月 東京家庭裁判所 調停委員(現任) 平成15年8月 窪木法律事務所開設 所長就任(現任) 平成21年4月 会計検査院・退職手当審査会 委員(現任) 平成24年4月 中央大学法科大学院 客員教授就任(現任) 平成27年6月 当社社外取締役就任(現任) 平成28年6月 シチズンホールディングス㈱(現シチズン時計㈱) 社外監査役就任(現任)	(注) 6	500
常勤監査役		月原 幹夫	昭和24年8月7日	昭和47年4月 ㈱第一勧業銀行(現㈱みずほ銀行)入行 平成13年4月 ㈱第一勧業総合研究所(現みずほ総合研究所㈱)転籍 上席主任コンサルタント 平成19年6月 当社社外監査役就任 平成19年7月 みずほ総合研究所㈱ 主席コンサルタント 平成20年6月 同社退職 当社社外常勤監査役就任(現任)	(注) 7	4,300
監査役		渡邊 宣昭	昭和24年3月25日	昭和47年10月 監査法人和光事務所(現有限責任 あずさ監査法人)入所 昭和56年8月 公認会計士登録 昭和57年1月 税理士登録 平成12年5月 朝日監査法人(現有限責任 あずさ監査法人)代表社員 平成20年7月 あずさ監査法人(現有限責任 あずさ監査法人)東関東事務所長 平成23年6月 有限責任 あずさ監査法人退職 平成23年7月 公認会計士渡邊宣昭事務所開設 所長就任(現任) 平成24年5月 ㈱東天紅 社外監査役就任(現任) ㈱パイプドビッツ 社外監査役就任 平成27年6月 当社社外監査役就任(現任) 平成27年9月 パイプドHD㈱ 社外監査役就任(現任)	(注) 7	
監査役		吉川 正勝	昭和28年8月21日	昭和51年4月 薬日本堂㈱入社 昭和51年6月 薬剤師名簿登録 平成2年4月 ㈱薬日本堂中部(現薬日本堂㈱)代表取締役社長就任 平成7年11月 薬日本堂㈱ 店舗運営部長 平成8年3月 同社 取締役就任 営業本部長 平成10年7月 同社 取締役 人事本部長 平成13年5月 同社 取締役 管理本部長 平成14年5月 同社 常務取締役就任 平成16年12月 同社 代表取締役社長就任 平成19年4月 同社 代表取締役社長退任 平成19年8月 ハビルス・ライフ研究所開業 平成20年6月 タカノ㈱ 技術顧問(現任) 平成21年7月 ㈱シーボン コンプライアンス委員 平成27年6月 当社社外監査役就任(現任)	(注) 7	900
計						2,453,316

- (注) 1. 代表取締役社長COO 中村敬氏は、代表取締役会長CEO 中村勝氏の長男であります。
2. 取締役 網岡克雄氏及び窪木登志子氏は、社外取締役であります。なお、当社は、両氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 常勤監査役 月原幹夫氏、監査役 渡邊宣昭氏及び吉川正勝氏は、社外監査役であります。なお、当社は、3氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
4. 当社は、意思決定・監督と執行の分離による経営管理体制を目指しており、執行役員制度を導入しております。
平成30年6月25日提出日現在において、上席執行役員4名（薬局事業本部 柄澤忍氏、経営企画本部担当部長 小俣栄氏、広報部長 安部慎一郎氏、北海道東北薬局事業本部長 清水廣氏）及び執行役員9名（関東第二薬局事業本部長 橋本千枝氏、管理本部副本部長 玉井啓介氏、中部薬局事業本部長 井浪義幸氏、管理本部長 富樫豊氏、管理本部副本部長 緒方伸一氏、近畿薬局事業本部長 金澤洋氏、セルフメディケーション推進部長 清水潤氏、事業開発部長 斉藤宏氏、総務法務部長 工藤香純氏）の計13名で構成されております。
5. 当社は、法令に定める監査役の数に欠ける場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選出しております。補欠監査役の略歴は、以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
山本 行治	昭和43年1月21日	平成8年6月 税理士登録 平成12年10月 山本会計事務所開設 所長就任(現任) 平成13年6月 当社監査役就任 平成16年6月 当社監査役退任 平成19年4月 (株)ユナイテッド設立 代表取締役就任(現任)	4,800

6. 取締役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から、平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
7. 監査役の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から、平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

<コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方>

当社は、企業理念、スローガン、クオールビジョン、クオールグループ企業行動憲章に基づいた企業活動を通じ、継続的に企業価値の向上を図ることが、株主の皆さまや患者さま、従業員をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応えるものと認識しております。この実現のため、経営の健全性、透明性、効率性を確保する基盤として、コーポレート・ガバナンスの継続的強化を経営上の重要課題としており、独立役員要件を満たす社外取締役・社外監査役の選任により、経営監督機能を強化しております。さらに、株主との対話方針として、株主・投資家との対話を積極的に行うこととし、経営計画の進捗をはじめとする経営状況に関する情報、定量的な財務情報、コーポレート・ガバナンスやCSRなどの非財務情報の開示を適時・適切に行うほか、株主の権利行使のための適切な環境整備に努めるなど、株主・投資家を含めたステークホルダーからのご期待に応えるよう努める方針としております。

企業統治の体制及び内部統制システムの整備の状況等

当社は、患者さまニーズへの迅速な対応や環境変化に対して迅速な意思決定が求められております。このような事業環境の下、事業を円滑に進めつつ経営の健全性、透明性、効率性を重視した意思決定を行う体制を確保するために、実効性のある企業統治体制を次のとおり構築しております。

経営の健全性、透明性については、独立性のある社外取締役及び社外監査役を選任することにより、経営監督機能を強化しております。また、経営の効率性については、執行役員制度を導入し、業務執行における意思決定の迅速化及び効率化を図っております。

a. 企業統治の体制

(a) 取締役会

取締役会は、取締役11名（男性9名、女性2名）、監査役3名（平成30年6月25日現在）で構成され、原則月1回開催し、経営の重要事項の意思決定及び業務執行状況の管理監督を行っております。なお、当社は、事業年度ごとの経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年としております。

(b) 監査役会

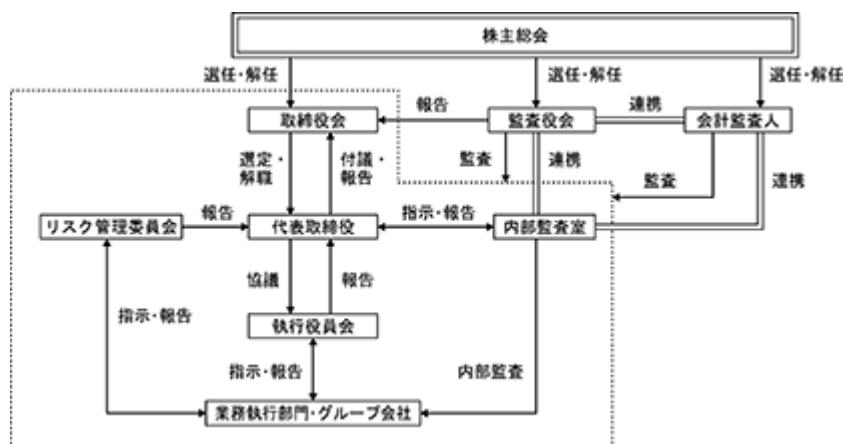
監査役会は、常勤社外監査役1名、非常勤社外監査役2名の計3名（平成30年6月25日現在）で構成され、「監査役会規則」「監査役監査基準」に則り、取締役の職務執行の適正性及び執行役員の業務執行の適正性を監査しております。なお、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名を選任しております。

(c) 執行役員会

執行役員会は、上席執行役員4名及び執行役員9名（男性11名、女性2名）（平成30年6月25日現在）で構成され、業務執行の責任と権限を付与された執行役員が合議・決定を行うことにより、意思決定の迅速化及び効率化を図っております。また、各執行役員は、「組織規程」「職務権限規程」「業務分掌規程」に基づき効率的に業務を遂行しております。

b.現在の企業統治体制を採用する理由

当社は、上記(a)～(c)のとおり社外取締役及び独立役員を含む社外監査役の選任、執行役員制度の導入による業務執行体制の構築により、経営に対する監視・監督機能を実効的に果たしていると考えことから、現状の体制でコーポレート・ガバナンスが有効に機能しているものと判断しております。



c.内部統制システムの整備状況

当社は、会社法及び会社法施行規則に則り、当社及びグループ会社から成る当社グループの業務の適正を確保するための体制(以下、「内部統制」という。)の整備に関する基本方針を以下のとおり定めております。また、本基本方針及び規程・マニュアル等を状況変化に応じて適宜見直すことにより、内部統制の実効性を維持向上しております。

(a)取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (イ)当社は、企業理念を着実に遂行することを企業目的とし、法令、定款、社内規程に従い「クオールグループ企業行動憲章」「役職員倫理規程」「コンプライアンス管理規程」を遵守した高い倫理観に基づく企業活動を推進しております。
- (ロ)当社は、利益相反取引及び利益相反取引と疑われる取引について、事業推進上の制約を受けることなく、取引比率及び取引条件等においても、公正妥当な取引を行うよう、取締役及び監査役が常に監視しております。
- (ハ)当社は、社外取締役及び社外監査役を選任しております。社外取締役及び社外監査役は、取締役の職務執行が機能する体制が整備・確保され、実践されているかを監視しております。
- (ニ)執行部門から独立した内部監査担当部門を設置し、当社における業務活動の適正性及び効率性を監視しております。
- (ホ)法令等遵守の統括機関として、リスク管理委員会にコンプライアンス部会を設置し、当社及びグループ会社に対して企業倫理とコンプライアンスの徹底を図っております。
- (ヘ)内部統制の統括機関として、内部統制委員会に内部統制部会を設置し、所定の手続を経て内部統制のモニタリング等を実施・評価し、内部統制委員会にて審議の上社長に報告、取締役会にて最終決定しております。

(b)取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、別に定める「文書管理規程」及びその他社内規程に基づき、適切に保存・管理を行っております。監査役会又は監査役は、必要に応じて当該文書を自由に閲覧することができるものとしております。

(c) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (イ) 損失の危険に関する規程その他の体制に関する事項については、別に定める「全社リスク管理規程」及びその他社内規程に基づき、リスクマネジメントの実践を通じ、事業の継続・安定的発展を確保しております。監査役会又は監査役は、必要に応じて当該文書を自由に閲覧することができるものとしております。
- (ロ) 大規模な災害、事故等の発生によるリスクに適切に対処するため、適宜迅速に対策本部を設置しております。対策本部で取扱うべきリスク、権限、活動内容等の詳細については、「危機管理（リスク管理）規程」において定めております。

(d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (イ) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を原則月1回開催し、年度予算の進捗状況を報告、対策を決定するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、適宜個別審議事項に対応しております。
- (ロ) 取締役会の機能強化と迅速な意思決定を目的として、執行役員制度を導入し、経営の意思決定をする取締役と、業務遂行の責任を担う執行役員を明確に区分しております。
- (ハ) 別に定める「職務権限規程」に基づき、迅速効率的な業務遂行を図っております。

(e) 当社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (イ) 「クオールグループ企業行動憲章」及び「役職員倫理規程」並びに「コンプライアンス管理規程」を当社及びグループ会社における業務運営の倫理上・業務上の指針としております。
- (ロ) 経営管理については「関係会社管理規程」に従い、当社への決裁・報告制度による関係会社経営の管理を行っており、グループ全体の業務が効率的に行われることを確保しております。また業務上重要な事項が発生した場合には、都度当社に報告が行われる体制を構築しております。
- (ハ) 内部監査担当部門は、別に定める「内部監査規程」に基づき、関係会社に対し、グループ統制の見地から、人事・資金面での影響度や連結決算の適正な実施等、定期的もしくは特目的に監査しております。
- (ニ) グループ会社が当社からの経営管理、経営指導内容又は法令に違反し、その他、コンプライアンス上問題があると認められる場合には、リスク管理委員会コンプライアンス部会の事務局である総務担当部門に報告しております。コンプライアンス部会は、直ちに監査役に報告を行うとともに、意見を述べることができます。また監査役は、意見を述べるとともに、当社取締役会にて改善策を求めることができます。
- (ホ) 「危機管理（リスク管理）規程」において、リスク管理体制の適用範囲にグループ会社も含め、その損失の危険の管理を行っております。

(f) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び、同使用人の取締役からの独立性に関する事項、同使用人に対する指示の実行性の確保に関する事項

- (イ) 監査役がその職務を補助すべき使用人を任命する必要がある場合には、当社の使用人から監査役補助者を任命することとしております。補助使用人が兼任で監査補助業務を担う場合には、監査役が補助使用人に対する指揮命令に関し、取締役以下補助使用人の属する組織の上長の指揮命令は受けないこととしております。監査補助者の評価は監査役が行い、監査役の同意を得た上で取締役会が決定することとし、取締役からの独立を確保するものとしております。
- (ロ) 監査役補助者は、業務の執行に係る役職を兼務しないこととしております。

(g) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制、報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- (イ) 当社及びグループ会社の取締役及び使用人は、当社グループの業務又は業績に与える重要な事項について、当社の監査役に都度報告することができます。前記にかかわらず、監査役はいつでも必要に応じて、当社及びグループ会社の取締役及び使用人に対して報告を求めることができます。
- (ロ) 監査役に報告を行った者が、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けない体制を確保しております。

(h) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

(イ) 当社及びグループ会社の取締役は、定期的に監査役と情報交換を行っております。

(ロ) 内部監査担当部門は、定期的に監査役に監査結果を報告しております。

(ハ) 監査役は、会計監査人に対して会計監査の結果等について随時説明及び報告を行わせるとともに定期的に情報交換を実施しております。

(ニ) 監査役の職務の執行について生じる費用の前払又は償還の手続その他の職務の執行について生じる費用又は債務の処理については、監査役の請求等により円滑に行えるものとしております。

(i) 反社会的勢力排除に向けた体制

当社は、反社会的勢力排除に向けた体制を維持するために、「反社会的勢力対策規程」を定めております。社会の秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対しては、警察、顧問法律事務所等外部の専門機関とも連携をとりつつ、毅然とした姿勢で組織的に対応する体制を確保しております。

(j) 財務報告の信頼性を確保するための体制

当社は、財務報告の信頼性を確保するため「財務報告に係る内部統制の整備・運用及び評価の基本計画」を定め、財務報告に係る内部統制が有効に機能する体制を構築、整備、運用しております。

d. リスク管理体制の整備状況

当社は、リスク管理体制の整備状況について、以下基本方針を規定した「全社リスク管理規程」を制定し、リスクマネジメントに関する基本的事項を規定し、事業を取り巻く様々なリスクに対する確かな管理・対応の実践を目的とした体制を構築しております。

- 基本方針 -

(a) リスクマネジメントの実践を通じ、事業の継続・安定的発展を確保しております。

(b) 調剤業務やサービスの品質と安全性の確保を最優先に、お客様、取引先、株主・投資家、地域社会等の各ステークホルダー及び役職員の利益阻害要因の除去・軽減に誠実に努めております。

(c) 医療に関わる業務に携わる者としての責任を自覚し、調剤業務や各種サービスを安心かつ安全性をもって供給することを社会的使命として行動しております。

(d) 全役職員は、コンプライアンスの精神に則り、各種法令、規則等を遵守し、それぞれが自律的に、何が倫理的に正しい行為かを考え、その価値判断に基づき行動しております。

具体的には、当社のリスクマネジメント体制として、取締役及び主要な部門の部門長により構成されるリスク管理委員会を設置しております。リスク管理委員会は、「全社リスク管理規程」に規定されたリスク(外部リスク、業務プロセスリスク、内部リスクに分類)、「危機管理(リスク管理)規程」に規定された経営危機の範囲について、そのマネジメントの取組全体の方針・方向性の検討、協議・承認を行っております。総務担当部門は、リスク管理委員会のコンプライアンス部会事務局として定例会議を開催し、各リスクマネジメントの推進報告、個別課題や全社的計画を協議、立案しております。

各種リスクに関連する部門が、その防止策やマニュアルの整備にあたり、リスク管理委員会事務局がその進捗管理を行っております。なお、当社グループの主力である保険薬局事業に顕在する「調剤過誤」は、事業上最も重要なリスクとの見地から、平成20年4月より、「調剤過誤撲滅委員会」を設置し、執行役員会に毎月の過誤報告の発生状況・分析の報告、防止策の検討を行っております。

また、トラブル発生時の対応手順などを「クオールグループ必携情報」に掲載し、全役職員に携帯させることで、その対処方法を徹底し、リスクマネジメント体制の維持に努めております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査は、社長直轄の内部監査担当部門（内部監査担当部門長以下5名 その他臨時に内部監査員として監査担当者を任命）が担っております。内部監査担当部門長は、適法かつ適正・効率的な業務の確保のための監査を実施し、必要に応じて、関係部門に対し改善提案を行っております。監査結果は、取締役及び業務執行部門が出席する内部監査報告会において原則月1回報告されております。監査役に対しては、年2回監査役会において監査結果を報告しております。また、内部監査担当部門長は、監査役及び会計監査人と適宜相互連携し、監査業務の効率化を図っております。

監査役監査は、各監査役が監査役会において定めた監査の方針、業務の分担等に従い、取締役会その他重要な会議に出席するほか、取締役等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧、業務及び財産の状況を調査及び必要に応じてグループ会社から営業の報告を求める等、取締役等の職務の執行を厳正に監査しております。また、各監査役は会計監査人より監査に関する計画及び結果等について適宜説明・報告を受けております。

社外監査役3名のうち月原幹夫氏は、平成19年の当社社外監査役就任以前の銀行で培われた財務業務の経験と、経営コンサルタントとして培われた様々な視点からの業務改善の知識・経験等を有しております。また、同氏は独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

社外取締役及び社外監査役との関係

当社は、より広い見地からの意思決定の実施、業務執行の監督を図るため、社外取締役を選任しております。社外取締役については、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な立場で、卓越した知見・経験をもとに職務が執行されるとの判断に基づき選任しております。

社外監査役についても、同様の立場で、財務、ビジネスに関する卓越した知見をもとに職務が執行されるとの判断に基づき選任しております。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針の定めはありませんが、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方としております。

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

社外取締役である網岡克雄氏は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。同氏は、薬剤師としての高度な専門知識及び大学教授として幅広い見識を有しております。当社は同氏と顧問契約を締結しております。

社外取締役である窪木登志子氏は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。同氏は、弁護士としての高度な専門知識を有しております。当社は同氏と顧問契約を締結しております。なお、同氏は、当社株式を500株保有しております。

常勤社外監査役である月原幹夫氏は、前述のとおり独立役員として届け出ております。独立した社外監査役としての立場で、取締役会の適正性・妥当性を確保するための質問・発言を適宜行うとともに、内部統制システムの整備をはじめとする取締役等の職務執行の状況を監視、検証しております。なお、同氏は、当社株式を4,300株保有しております。

非常勤社外監査役である渡邊宣昭氏は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。同氏は、公認会計士・税理士としての高度な専門知識を有しております。

非常勤社外監査役である吉川正勝氏は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。同氏が他の企業において代表取締役としての企業経験を有しており、その豊富な経験と幅広い知識に加え、薬剤師としての高度な専門知識を有しております。なお、同氏は、当社株式を900株保有しております。

これら以外の人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、定款第29条の規定に基づき社外取締役である網岡克雄氏及び窪木登志子氏との間で、会社法第427条第1項の契約(以下、「責任限定契約」という。)を締結しております。この責任限定契約の概要は、会社法第423条第1項の責任について、取締役の職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、法令に定める金額を限度とするものです。

当社は、定款第39条の規定に基づき社外監査役である月原幹夫氏、渡邊宣昭氏及び吉川正勝氏との間で、それぞれ責任限定契約を締結しております。これらの責任限定契約の概要は、会社法第423条第1項の責任について、監査役の職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、法令に定める金額を限度とするものです。

役員報酬等の内容

a. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	役員退職慰労 引当金繰入額	
取締役 (社外取締役を除く)	399	399				10
監査役 (社外監査役を除く)						0
社外役員	34	34				5

(注)上記の支給人員と相違しているのは、平成29年6月28日開催の第25期定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任した取締役2名を含んでおり、また、無報酬の取締役1名が在任しているためであります。

b. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、特段規程等に定めておりませんが、業績及び各役員の職責と成果に基づいて算定することを基本方針とし、取締役会において決定しております。

株式の保有状況

a. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上の合計額

銘柄数：5

貸借対照表計上額の合計額：307百万円

b. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)メディカルー光	31,000	234	企業間取引の強化
大正製薬ホールディングス(株)	930	8	企業間取引の強化
アルフレッサ・ホールディングス(株)	4,000	7	企業間取引の強化

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)メディカルー光	31,000	274	企業間取引の強化
大正製薬ホールディングス(株)	930	9	企業間取引の強化
アルフレッサ・ホールディングス(株)	4,000	9	企業間取引の強化

c. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

会計監査は、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しており、会社法監査及び金融商品取引法監査を受けております。当社からは適時適切に必要な情報を提供することで、迅速かつ正確な監査が実施しやすい環境を整備しております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、所属監査法人は次のとおりであります。

指定有限責任社員 業務執行社員 轟 芳英 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員 伊藤 孝明 有限責任 あずさ監査法人

なお、上記公認会計士のほかに、公認会計士6名、その他7名であります。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

a. 剰余金の配当等の決定

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項に定める事項については、法令に特段の定めがある場合を除き、取締役会決議によって定めることとする旨を定款で定めております。

b. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役の員数は、15名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、累積投票によらない旨を定款に定めております。

取締役の解任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	33	9	34	
連結子会社				
計	33	9	34	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は、有限責任 あずさ監査法人に対して、公認会計士法第2条第1項に規定する業務以外の合意された手続業務を委託し、対価を支払っております。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査計画による業務の特性等を勘案したうえで決定しております。

第5 【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 14,174	1 19,820
受取手形及び売掛金	1 15,785	1 16,640
商品及び製品	4,489	4,521
仕掛品	37	84
貯蔵品	134	114
繰延税金資産	831	1,025
その他	1,131	1,110
貸倒引当金	5	4
流動資産合計	36,578	43,313
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,219	5,199
工具、器具及び備品（純額）	1,357	1,773
土地	3,689	3,418
その他（純額）	105	153
有形固定資産合計	2 10,373	2 10,544
無形固定資産		
のれん	28,588	27,146
ソフトウェア	705	606
その他	188	185
無形固定資産合計	29,483	27,938
投資その他の資産		
投資有価証券	573	691
敷金及び保証金	3,108	3,080
繰延税金資産	424	330
その他	3 829	3 1,500
貸倒引当金	122	114
投資その他の資産合計	4,812	5,489
固定資産合計	44,668	43,971
繰延資産		
社債発行費	43	29
繰延資産合計	43	29
資産合計	81,290	87,315

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	17,626	18,265
短期借入金	4 540	4 100
1年内返済予定の長期借入金	1 5,833	1 6,099
未払法人税等	1,481	2,360
賞与引当金	1,974	2,092
その他	3,728	5,074
流動負債合計	31,183	33,991
固定負債		
社債	15,603	5,072
長期借入金	1 11,631	1 11,289
繰延税金負債	42	69
役員退職慰労引当金	55	-
退職給付に係る負債	340	266
資産除去債務	593	601
偶発損失引当金	142	-
その他	64	87
固定負債合計	28,473	17,387
負債合計	59,657	51,379
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,828	5,786
資本剰余金	9,366	13,489
利益剰余金	13,137	17,245
自己株式	4,182	827
株主資本合計	21,149	35,694
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	167	241
その他の包括利益累計額合計	167	241
非支配株主持分	315	-
純資産合計	21,632	35,935
負債純資産合計	81,290	87,315

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
売上高	131,502	145,516
売上原価	114,625	125,867
売上総利益	16,876	19,648
販売費及び一般管理費	1 10,010	1 10,557
営業利益	6,865	9,091
営業外収益		
受取家賃	19	28
受取手数料	65	77
保険解約返戻金	219	52
補助金収入	13	10
偶発損失引当金戻入額	-	142
受取保証料	25	50
その他	150	83
営業外収益合計	493	444
営業外費用		
支払利息	106	103
偶発損失引当金繰入額	142	-
その他	44	99
営業外費用合計	293	203
経常利益	7,065	9,333
特別利益		
固定資産売却益	2 5	2 83
役員退職慰労引当金戻入額	9	-
投資有価証券売却益	370	-
特別利益合計	385	83
特別損失		
固定資産除却損	3 21	3 141
固定資産売却損	4 2	4 42
投資有価証券売却損	-	2
減損損失	5 152	5 819
厚生年金基金脱退損失	65	-
ゴルフ会員権評価損	28	-
特別損失合計	270	1,005
税金等調整前当期純利益	7,180	8,411
法人税、住民税及び事業税	2,762	3,501
法人税等調整額	8	108
法人税等合計	2,770	3,392
当期純利益	4,409	5,018
非支配株主に帰属する当期純利益	56	32
親会社株主に帰属する当期純利益	4,353	4,986

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	4,409	5,018
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	201	73
その他の包括利益合計	201	73
包括利益	4,208	5,092
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,152	5,059
非支配株主に係る包括利益	56	32

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	2,828	9,354	9,680	1,469	20,394	368	368	259	21,022
当期変動額									
剰余金の配当			896		896				896
親会社株主に帰属する 当期純利益			4,353		4,353				4,353
自己株式の取得				2,838	2,838				2,838
自己株式の処分		11		125	136				136
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						201	201	56	145
当期変動額合計		11	3,457	2,713	755	201	201	56	610
当期末残高	2,828	9,366	13,137	4,182	21,149	167	167	315	21,632

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	2,828	9,366	13,137	4,182	21,149	167	167	315	21,632
当期変動額									
剰余金の配当			878		878				878
新株の発行	2,958	2,958			5,916				5,916
親会社株主に帰属する 当期純利益			4,986		4,986				4,986
自己株式の取得				0	0				0
自己株式の処分		1,401		3,355	4,756				4,756
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		235			235				235
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						73	73	315	241
当期変動額合計	2,958	4,123	4,107	3,355	14,544	73	73	315	14,303
当期末残高	5,786	13,489	17,245	827	35,694	241	241	315	35,935

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	7,180	8,411
減価償却費	1,584	1,624
のれん償却額	1,946	2,340
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	488	159
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	0	83
賞与引当金の増減額(は減少)	115	103
貸倒引当金の増減額(は減少)	24	9
偶発損失引当金の増減額(は減少)	142	142
固定資産除売却損益(は益)	18	100
減損損失	152	819
厚生年金基金脱退損失	65	-
ゴルフ会員権評価損	28	-
投資有価証券売却損益(は益)	369	2
保険解約返戻金	219	52
受取利息及び受取配当金	15	18
支払利息	106	103
たな卸資産の増減額(は増加)	442	177
売上債権の増減額(は増加)	1,623	389
仕入債務の増減額(は減少)	2,763	114
その他	33	936
小計	9,560	13,879
利息及び配当金の受取額	15	18
利息の支払額	103	103
法人税等の支払額	3,593	2,676
厚生年金基金脱退による支出	65	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,813	11,116
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	281	-
定期預金の払戻による収入	606	23
有形固定資産の取得による支出	1,457	1,628
有形固定資産の売却による収入	120	488
無形固定資産の取得による支出	270	149
投資有価証券の取得による支出	20	20
投資有価証券の売却による収入	561	6
貸付けによる支出	1	1
貸付金の回収による収入	9	4
敷金及び保証金の差入による支出	287	107
敷金及び保証金の回収による収入	113	88
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	3 12,855	3 1,816
関係会社株式の取得による支出	30	59
関係会社株式の売却による収入	-	30
事業譲受による支出	2 1,903	2 -
その他	302	632
投資活動によるキャッシュ・フロー	15,392	3,775

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	274	441
長期借入れによる収入	11,125	7,000
長期借入金の返済による支出	5,844	7,152
社債の発行による収入	5,972	997
社債の償還による支出	466	1,330
株式の発行による収入	-	416
自己株式の処分による収入	133	306
自己株式の取得による支出	2,838	0
連結子会社株式の追加取得による支出	-	583
配当金の支払額	896	878
その他	24	19
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,435	1,685
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,143	5,656
現金及び現金同等物の期首残高	16,287	14,144
現金及び現金同等物の期末残高	1 14,144	1 19,800

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 18社

連結子会社の名称

アポプラスステーション株式会社

他17社

当連結会計年度において株式取得により連結子会社となりました、うおぬま調剤株式会社他6社は連結の範囲に含めております。また、クオール分割準備株式会社については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

株式会社セントフォローカンパニー他5社は当社と合併し、消滅しております。また、子会社間の合併により、4社が消滅しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称

APO PLUS STATION(THAILAND)CO.,LTD.

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社1社は小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の数 持分法適用の非連結子会社及び関連会社はありません。

持分法を適用していない主要な非連結子会社の名称 APO PLUS STATION(THAILAND)CO.,LTD.

持分法を適用しない理由

持分法を適用しない会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

a 商品及び製品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

b 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

c 貯蔵品

主として最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3年～50年

構築物 3年～45年

工具、器具及び備品 2年～20年

無形固定資産(リース資産除く)

定額法

自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

長期前払費用

定額法

(3) 重要な繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還期間にわたり定額法により償却しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給額に備えて、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

個別案件ごとに判断し、その金額の重要性が乏しい場合を除き、20年以内の合理的な期間で定額法により償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は繰延処理し、法人税法に規定する期間により償却しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日)

(1) 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われております。

(2) 適用予定日

平成31年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取保証料」(前連結会計年度25百万円)は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前年決会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、従業員に対する中長期的な企業価値向上へのインセンティブの付与を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

(1) 取引の概要

当社は、平成28年7月28日開催の取締役会決議に基づき、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)」(以下、「本プラン」といいます。)を導入しております。

本プランは、「クオール従業員持株会」(以下、「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。本プランでは、当社が信託銀行に「クオール従業員持株会専用信託」(以下、「従持信託」といいます。)を設定し、その設定後5年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を予め取得します。その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当社株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。なお、当社は、従持信託が当社株式を取得するための借入に対し保証することになるため、当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、保証契約に基づき、当社が当該残債を弁済することになります。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度1,025百万円、669千株、当連結会計年度826百万円、539千株であります。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前連結会計年度1,033百万円、当連結会計年度773百万円

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
預金	19百万円	28百万円
売掛金	91	80
計	110	108

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	11	11
長期借入金	66	60
計	77	71

2 有形固定資産から控除している減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
有形固定資産減価償却累計額	10,542百万円	11,264百万円

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資その他の資産 (関係会社株式) その他	60百万円	89百万円

4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行17行（前連結会計年度16行）と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額の総額	12,100百万円	12,050百万円
借入実行残高	500	100
差引額	11,600	11,950

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
給与手当	1,948百万円	2,093百万円
賞与引当金繰入額	332	315
退職給付費用	47	65
のれん償却額	1,946	2,340

2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	4百万円	0百万円
工具、器具及び備品	0	0
土地	0	81
その他	0	1
計	5	83

3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	16百万円	101百万円
工具、器具及び備品	2	11
ソフトウェア	0	5
その他	0	23
計	21	141

4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	2百万円	12百万円
工具、器具及び備品	0	0
土地	-	29
その他	0	0
計	2	42

5 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

地区名	用途	種類	金額
東北地方	店舗等	建物及び構築物・工具、器具及び備品	0百万円
関東地区	店舗等	建物及び構築物・工具、器具及び備品・のれん・その他	136
近畿地区	店舗等	建物及び構築物・工具、器具及び備品・のれん・その他	15
合計			152

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループのうち、将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回ることとなった資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当期減少額を減損損失として計上いたしました。

当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。なお、正味売却価額は、零として評価しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

地区名	用途	種類	金額
東北地方	店舗等	建物及び構築物・工具、器具及び備品	1百万円
関東地区	店舗等	建物及び構築物・工具、器具及び備品・のれん・その他	625
中部地区	店舗等	建物及び構築物・工具、器具及び備品・のれん・その他	97
近畿地区	店舗等	建物及び構築物・工具、器具及び備品・その他	26
中国地区	店舗等	工具、器具及び備品	0
九州地区	店舗等	建物及び構築物・のれん	67
合計			819

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループのうち、将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回ることとなった資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当期減少額を減損損失として計上いたしました。

当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額または使用価値（割引率3.5%）により測定しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	76百万円	107百万円
組替調整額	369	2
税効果調整前	293	110
税効果額	91	36
その他有価証券評価差額金	201	73
その他の包括利益合計	201	73

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	35,845,500	-	-	35,845,500
合計	35,845,500	-	-	35,845,500
自己株式				
普通株式(注)	1,375,100	1,886,135	89,900	3,171,335
合計	1,375,100	1,886,135	89,900	3,171,335

- (注) 1. 当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、信託が保有する自社の株式がそれぞれ、26,300株、669,300株含まれております。
2. 自己株式の株式数の増加1,886,135株は、平成29年1月10日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加1,153,200株、単元未満株式の買取りによる増加35株及び従業員持株会専用信託による当社株式の取得による増加732,900株であります。
3. 自己株式の株式数の減少89,900株は、信託による当社株式の当社従業員持株会への売却による減少であります。

2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	増加	減少	当連結 会計年度末	
提出会社	第1回無担保転換社 債型新株予約権付社 債	普通株式	5,558,700	-	-	5,558,700	(注)

- (注) 1. 転換社債型新株予約権付社債については、一括法によっております。
2. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年5月12日 取締役会	普通株式	482	14	平成28年3月31日	平成28年6月7日
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	413	12	平成28年9月30日	平成28年12月1日

- (注) 平成28年5月12日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金0百万円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	392	利益剰余金	12	平成29年3月31日	平成29年6月13日

- (注) 平成29年5月15日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金8百万円が含まれております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	35,845,500	3,057,285	-	38,902,785
合計	35,845,500	3,057,285	-	38,902,785
自己株式				
普通株式(注)	3,171,335	66	2,631,215	540,186
合計	3,171,335	66	2,631,215	540,186

- (注) 1. 当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、信託が保有する自社の株式がそれぞれ、669,300株、539,500株含まれております。
2. 発行済株式の株式数の増加3,057,285株は、転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の権利行使による増加であります。
3. 自己株式の株式数の増加66株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。
4. 自己株式の株式数の減少2,631,215株は、信託による当社株式の当社従業員持株会への売却による減少129,800株、転換社債型新株予約権付社債における新株予約権の行使による減少2,501,415株であります。

2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる 株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	増加	減少	当連結 会計年度末	
提出会社	第1回無担保転換社債型新株予約権付社債	普通株式	5,558,700	-	5,558,700	-	(注)

- (注) 1. 転換社債型新株予約権付社債については、一括法によっております。
2. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。
3. 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の減少は、新株予約権の行使による減少であります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	392	12	平成29年3月31日	平成29年6月13日
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	478	14	平成29年9月30日	平成29年12月1日

- (注) 1. 平成29年5月15日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金8百万円が含まれております。
2. 平成29年10月31日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金8百万円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年5月15日 取締役会	普通株式	544	利益剰余金	14	平成30年3月31日	平成30年6月7日

- (注) 平成30年5月15日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金7百万円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
現金及び預金勘定 預入期間が3か月を超える 定期預金	14,174百万円 30	19,820百万円 20
現金及び現金同等物	14,144	19,800

2 前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

事業の譲受けにより増加した資産及び負債の主な内訳は次のとおりであります。

流動資産	182百万円
固定資産	104
流動負債	-
固定負債	-
のれん	1,616
事業譲受による支出	1,903

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

該当事項はありません。

3 当連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

株式の取得により新たに株式会社共栄堂他9社(以下、「新規取得連結子会社」という。)を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに、新規取得連結子会社株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	6,330百万円
固定資産	2,081
のれん	11,539
流動負債	3,140
固定負債	802
新規連結子会社株式の取得価額	16,008
新規連結子会社現金及び現金同等物	3,153
差引 新規連結子会社取得のための支出	12,855

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

株式の取得により新たにうおぬま調剤株式会社他6社(以下、「新規取得連結子会社」という。)を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに、新規取得連結子会社株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	1,193百万円
固定資産	298
繰延資産	2
のれん	1,628
流動負債	620
固定負債	195
新規連結子会社株式の取得価額	2,307
新規連結子会社現金及び現金同等物	491
差引 新規連結子会社取得のための支出	1,816

4 重要な非資金取引の内容

転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
新株予約権の行使による 資本金増加額	- 百万円	2,541百万円
新株予約権の行使による 資本剰余金増加額	-	4,301
新株予約権の行使による 自己株式減少額	-	3,156
新株予約権の行使による 社債減少額	-	10,000

(リース取引関係)

(借主側)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	227	293
1年超	2,028	2,280
合計	2,255	2,573

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については普通預金の安全性の高い金融資産で行い、また、資金調達については主に銀行借入及び社債発行により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、主力事業である保険薬局事業において、取引先が国民健康保険団体連合会や社会保険診療報酬支払基金等、公的機関であることから、信用リスクは低いと言えます。

しかしながら、一部、保険薬局事業以外の事業における営業債権は、信用リスクにさらされております。当該リスクについては、与信管理を定めた社内規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。

投資有価証券は、主に株式であり市場価格の変動リスクにさらされております。

敷金及び保証金は、新規出店時等に契約に基づき貸主に差し入れる敷金並びに保証金であり、貸主の信用リスクにさらされております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

借入金及び社債については、主に営業取引に係る運転資金の確保を目的としたものであります。

変動金利の借入金は、金利の変動リスクにさらされておりますが、主に中途解約可能な借入契約内容にしており、担当部署で金利情勢を管理し、支払金利の変動リスクが高まった場合には、借り換えを含めた代替手段を考え、即時に対応できる管理体制を構築しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には市場価格に基づく時価のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。当該価格の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価格が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注2)参照)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	14,174	14,174	-
(2) 受取手形及び売掛金	15,785	15,785	-
(3) 投資有価証券	526	526	-
(4) 敷金及び保証金	318	316	2
資産計	30,805	30,802	2
(1) 買掛金	17,626	17,626	-
(2) 短期借入金	540	540	-
(3) 長期借入金	17,465	17,509	44
(4) 社債	6,834	6,819	14
負債計	42,466	42,495	29

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	19,820	19,820	-
(2) 受取手形及び売掛金	16,640	16,640	-
(3) 投資有価証券	631	631	-
(4) 敷金及び保証金	276	272	4
資産計	37,369	37,365	4
(1) 買掛金	18,265	18,265	-
(2) 短期借入金	100	100	-
(3) 長期借入金	17,388	17,399	10
(4) 社債	6,503	6,507	3
負債計	42,257	42,271	14

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項は、次のとおりであります。

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

短期間で決済されるものについては、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。長期間で決済されるものについては、満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によって時価を算定しますが、算定した時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、市場価格によっております。

(4) 敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価については、将来キャッシュ・フローを国債の利率により割り引いて算定する方法によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金のうち、固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。なお、1年内返済予定の長期借入金は、当該項目に含めて表示しております。

(4) 社債

社債の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の社債発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、1年内償還予定の社債は当該項目に含めて表示しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式	46
敷金及び保証金	2,789
転換社債型新株予約権付社債	10,000

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式	59
敷金及び保証金	2,803
転換社債型新株予約権付社債	-

非上場株式、転換社債型新株予約権付社債については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」「(4) 社債」には含めておりません。

また、将来の償還予定時期が合理的に見込めない敷金及び保証金は、将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 敷金及び保証金」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	14,174			
受取手形及び売掛金	15,718	44	22	
敷金及び保証金	32	117	83	85
合計	29,926	161	105	85

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	19,820			
受取手形及び売掛金	16,584	44	11	
敷金及び保証金	30	88	81	76
合計	36,435	132	92	76

4. 社債、長期借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	1,230	1,230	1,240	908	908	1,316
長期借入金	5,833	4,666	2,632	1,813	2,040	478
合計	7,064	5,897	3,872	2,721	2,948	1,794

(注) 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債については、現時点で金額を合理的に見積もることができないため、上表には含めておりません。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	1,430	1,440	1,108	1,108	808	608
長期借入金	6,099	4,145	3,338	2,961	477	365
合計	7,530	5,586	4,446	4,069	1,285	973

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	523	89	433
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計			
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	2	3	0
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計			
合計		526	92	433

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 46百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	631	88	543
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計			
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式			
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計			
合計		631	88	543

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 59百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券
前連結会計年度(平成29年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	561	370	0
(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
(3)その他			
小計	561	370	0

当連結会計年度(平成30年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	6	0	2
(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
(3)その他			
小計	6	0	2

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計 の方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定 受取変動	長期借入金	80	51	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度及び前払退職金制度を採用しております。なお、平成19年度に合併した(株)イーベル出身の従業員につきましては、東京薬業厚生年金基金に加入しておりましたが、平成28年9月30日付で脱退しております。

また、一部の連結子会社は、中小企業退職金共済制度及び退職一時金制度を採用しており、退職一時金制度は簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、191百万円であります。

3. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	140百万円
退職給付費用	53
退職給付の支払額	27
制度への拠出額	24
子会社新規取得による増加	198
<u>退職給付に係る負債の期末残高</u>	<u>340</u>

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	340百万円
<u>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</u>	<u>340</u>

退職給付に係る負債	340
<u>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</u>	<u>340</u>

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	53百万円
----------------	-------

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度及び前払退職金制度を採用しております。なお、一部の連結子会社は、中小企業退職金共済制度及び退職一時金制度を採用しており、退職一時金制度は簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、219百万円であります。

3. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	340百万円
退職給付費用	59
退職給付の支払額	99
制度への拠出額	44
子会社新規取得による増加	10
<u>退職給付に係る負債の期末残高</u>	<u>266</u>

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	266百万円
<u>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</u>	<u>266</u>

退職給付に係る負債	266
<u>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</u>	<u>266</u>

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	59百万円
----------------	-------

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
賞与関連費用	671百万円	779百万円
繰越欠損金	88	80
退職給付に係る負債	135	91
確定拠出年金関連費用	5	5
未払事業税及び事業所税	116	183
減損損失	592	596
貸倒引当金	39	36
資産除去債務	186	188
資産調整勘定	540	399
その他	155	141
繰延税金資産小計	2,530	2,503
評価性引当額	1,110	979
繰延税金資産合計	1,420	1,524
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	65	60
その他有価証券評価差額金	142	178
その他	0	0
繰延税金負債合計	207	238
繰延税金資産(負債)の純額	1,213	1,285

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	831百万円	1,025百万円
固定資産 - 繰延税金資産	424	330
固定負債 - 繰延税金負債	42	69

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
のれん償却額	8.8	11.3
永久に益金又は損金に算入されない金額	0.3	0.6
住民税均等割	2.6	2.3
評価性引当額の増減	3.0	2.4
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.0	0.2
子会社からの受取配当金消去	0.4	
その他	1.5	2.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.6	40.4

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

店舗及び本社事務所の不動産賃貸借契約及び賃貸用不動産の定期借地権契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

店舗及び本社事務所の不動産賃貸借契約及び賃貸用不動産の定期借地権契約に伴う原状回復義務等は、使用見込期間を当該資産の耐用年数又は当該契約の期間を基に見積り、割引率は当該資産の耐用年数又は当該契約の期間に見合う国債の流通利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
期首残高	516百万円	598百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	87	31
時の経過による調整額	5	7
資産除去債務の履行による減少額	11	35
期末残高	598	601

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、市場及び販売方法等の類似性別に包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しており、「保険薬局事業」及び「BPO受託事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「保険薬局事業」は、保険薬局の経営を行っております。「BPO受託事業」は、BPOビジネスを行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	保険薬局事業	BPO受託事業	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	120,596	10,905	131,502	-	131,502
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	24	246	270	270	-
計	120,620	11,152	131,772	270	131,502
セグメント利益	6,161	1,498	7,660	794	6,865
セグメント資産	75,556	6,891	82,448	1,158	81,290
その他の項目					
減価償却費	1,464	27	1,491	30	1,522
のれん償却額	1,737	209	1,946	-	1,946
減損損失	152	-	152	-	152
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	12,900	21	12,921	13	12,935

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	保険薬局事業	BPO受託事業	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	135,084	10,431	145,516		145,516
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	24	392	417	417	
計	135,109	10,824	145,934	417	145,516
セグメント利益	8,652	1,341	9,994	902	9,091
セグメント資産	81,062	7,343	88,405	1,090	87,315
その他の項目					
減価償却費	1,455	21	1,477	32	1,509
のれん償却額	2,131	209	2,340		2,340
減損損失	661	158	819		819
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,582	44	3,627	24	3,652

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメント利益の調整額	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	49	40
全社費用	843	943
合計	794	902

主に報告セグメントに帰属しない本社部門に係る一般管理費であります。

(単位：百万円)

セグメント資産の調整額	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	1,467	1,443
全社資産	309	353
合計	1,158	1,090

主に報告セグメントに帰属しない本社部門に係る資産であります。

(単位：百万円)

その他の項目の調整額	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費 1	30	32
有形固定資産及び無形固定資産の増加額 2	13	24

1. 主に報告セグメントに帰属しない本社部門に係る減価償却費であります。

2. 主に報告セグメントに帰属しない本社部門に係る設備投資額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(a) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(b) 地域ごとの情報

(イ)売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため該当事項はありません。

(ロ)有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため該当事項はありません。

(c) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(a) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(b) 地域ごとの情報

(イ)売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため該当事項はありません。

(ロ)有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため該当事項はありません。

(c) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報は、「セグメント情報」の「3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」の「その他の項目」に記載しているため、省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報は、「セグメント情報」の「3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」の「その他の項目」に記載しているため、省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	保険薬局事業	BPO受託事業	全社・消去	合計
(のれん)				
当期償却額	1,737	209		1,946
当期末残高	26,442	2,146		28,588

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	保険薬局事業	BPO受託事業	全社・消去	合計
(のれん)				
当期償却額	2,131	209		2,340
当期末残高	25,347	1,798		27,146

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
その他の関係会社の子会社	㈱メディセオ	東京都中央区	100	医薬品等卸売業		当社の医薬品他仕入先	医薬品他の仕入	19,834	買掛金	4,878

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社と関係を有しない一般取引先と同様の条件によっております。

㈱メディセオは、当社の法人主要株主である㈱メディパルホールディングス(被所有割合26.1%、うち間接被所有割合3.3%)の完全子会社であります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
その他の関係会社の子会社	㈱メディセオ	東京都中央区	100	医薬品等卸売業		当社子会社の医薬品他仕入先	医薬品他の仕入	5,124	買掛金	1,433

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社子会社と関係を有しない一般取引先と同様の条件によっております。

㈱メディセオは、当社の法人主要株主である㈱メディパルホールディングス(被所有割合26.1%、うち間接被所有割合3.3%)の完全子会社であります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
その他の関係会社の子会社	㈱メディセオ	東京都中央区	100	医薬品等卸売業		当社の医薬品他仕入先	医薬品他の仕入	22,227	買掛金	5,724

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社と関係を有しない一般取引先と同様の条件によっております。

㈱メディセオは、当社の法人主要株主である㈱メディパルホールディングス(被所有割合22.3%、うち間接被所有割合2.8%)の完全子会社であります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
その他の関係会社の子会社	㈱メディセオ	東京都中央区	100	医薬品等卸売業		当社子会社の医薬品他仕入先	医薬品他の仕入	4,088	買掛金	1,192

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社子会社と関係を有しない一般取引先と同様の条件によっております。

㈱メディセオは、当社の法人主要株主である㈱メディパルホールディングス(被所有割合22.3%、うち間接被所有割合2.8%)の完全子会社であります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	652.42円	936.74円
1株当たり当期純利益金額	128.35円	141.19円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額		130.19円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	4,353	4,986
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	4,353	4,986
普通株式の期中平均株式数(株)	33,919,776	35,313,335
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)		
(うち支払利息(税額相当額控除後)(百万円))		
普通株式増加数(株)		2,984,641
(うち転換社債型新株予約権付社債(株))		2,984,641
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	第1回無担保転換社債型 新株予約権付社債 100個 (普通株式 5,558,700株)	

(注)株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めており、また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。

1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前連結会計年度320,971株、当連結会計年度604,125株であり、1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は、前連結会計年度669,300株、当連結会計年度539,500株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
当社	第7回無担保社債	平成25年2月28日	440 (140)	300 (140)	0.50	無担保社債	平成32年2月28日
当社	第8回無担保社債	平成25年4月10日	538 (182)	355 (182)	0.48	無担保社債	平成32年3月31日
当社	第9回無担保社債	平成28年7月28日	928 (144)	784 (144)	0.24	無担保社債	平成35年7月28日
当社	第10回無担保社債	平成28年7月28日	928 (144)	784 (144)	0.24	無担保社債	平成35年7月28日
当社	第11回無担保社債	平成28年12月30日	3,000 (420)	2,580 (420)	0.48	無担保社債	平成35年12月29日
当社	第12回無担保社債	平成29年3月31日	1,000 (200)	800 (200)	0.02	無担保社債	平成34年3月31日
当社	第13回無担保社債	平成29年9月29日	-	900 (200)	0.02	無担保社債	平成34年9月30日
当社	第1回無担保 転換社債型新株 予約権付社債 (注)3	平成27年10月27日	10,000	-	1.0	無担保社債	平成30年10月31日
合計	-	-	16,834 (1,230)	6,503 (1,430)	-	-	-

(注) 1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 転換社債型新株予約権付社債の内容

発行すべき株式の内容	新株予約権の発行価格	株式の行使価額(円)	発行価額の総額(百万円)	新株予約権の行使により発行した株式の発行価額の総額(百万円)	新株予約権の付与割合(%)	新株予約権の行使期間	代用払込みに関する事項
クオール株 普通株式	無償	1,799	10,000	10,000	100	自平成27年 10月28日 至平成30年 10月29日	(注)

(注) 新株予約権の行使に際して出資される財産の内容は、当該新株予約権に係る本社債を出資するものとする。

3. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
1,430	1,440	1,108	1,108	808

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	540	100	0.33	
1年以内に返済予定の長期借入金	5,833	6,099	0.49	
1年以内に返済予定のリース債務	19	11		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	11,631	11,289	0.40	平成31年~38年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	28	14		平成31年~34年
計	18,052	17,515		

- (注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	4,145	3,338	2,961	477
リース債務	7	5	0	

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	35,495	71,397	108,471	145,516
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,991	4,217	7,074	8,411
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,185	2,415	4,160	4,986
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	36.28	73.29	121.22	141.19

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	36.28	37.01	47.12	21.53

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,357	11,598
売掛金	9,516	11,334
商品	3,266	3,491
貯蔵品	90	75
前払費用	345	381
繰延税金資産	609	725
その他	1 914	1 702
貸倒引当金	5	4
流動資産合計	23,095	28,305
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,830	4,037
構築物（純額）	180	180
車両運搬具（純額）	42	46
工具、器具及び備品（純額）	1,095	1,539
土地	2,140	2,538
リース資産（純額）	0	0
建設仮勘定	13	3
有形固定資産合計	7,303	8,345
無形固定資産		
のれん	9,295	9,891
ソフトウェア	574	494
その他	107	105
無形固定資産合計	9,977	10,492
投資その他の資産		
投資有価証券	292	352
関係会社株式	29,076	26,798
長期貸付金	56	55
関係会社長期貸付金	1 1,799	1 1,509
長期前払費用	82	57
繰延税金資産	200	170
差入保証金	2,492	2,564
その他	432	1,126
貸倒引当金	110	106
投資その他の資産合計	34,322	32,528
固定資産合計	51,603	51,367
繰延資産		
社債発行費	43	29
繰延資産合計	43	29
資産合計	74,741	79,701

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,618	14,038
短期借入金	1, 2 4,247	1, 2 3,527
1年内返済予定の長期借入金	5,769	6,074
未払金	542	1,133
未払費用	616	844
未払法人税等	731	1,695
預り金	88	248
賞与引当金	1,335	1,503
その他	1 1,304	1 1,528
流動負債合計	27,255	30,593
固定負債		
社債	15,603	5,072
長期借入金	11,466	11,228
資産除去債務	425	472
偶発損失引当金	142	-
その他	4	53
固定負債合計	27,642	16,827
負債合計	54,897	47,420
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,828	5,786
資本剰余金		
資本準備金	2,487	5,445
その他資本剰余金	8,457	9,858
資本剰余金合計	10,945	15,304
利益剰余金		
利益準備金	12	12
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	10,119	11,852
利益剰余金合計	10,132	11,865
自己株式	4,182	827
株主資本合計	19,723	32,129
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	120	150
評価・換算差額等合計	120	150
純資産合計	19,844	32,280
負債純資産合計	74,741	79,701

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	1 93,678	1 105,212
売上原価	1 84,133	1 93,215
売上総利益	9,544	11,997
販売費及び一般管理費		
役員報酬	439	433
給料及び手当	664	753
賞与引当金繰入額	105	119
退職給付費用	31	37
法定福利費	147	185
賃借料	393	435
消耗品費	70	86
減価償却費	288	257
のれん償却額	943	1,135
支払手数料	633	664
その他	1,574	1,782
販売費及び一般管理費合計	1 5,292	1 5,891
営業利益	4,251	6,106
営業外収益		
受取家賃	1 30	1 34
受取利息	1 20	1 31
受取配当金	1 104	1 7
受取手数料	1 65	1 94
偶発損失引当金戻入額	-	142
受取保証料	25	50
その他	1 28	1 23
営業外収益合計	275	383
営業外費用		
支払利息	1 100	1 103
偶発損失引当金繰入額	142	-
その他	27	43
営業外費用合計	270	146
経常利益	4,256	6,343

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	2 0	2 1
役員退職慰労引当金戻入額	9	-
投資有価証券売却益	370	-
抱合せ株式消滅差益	531	124
特別利益合計	911	125
特別損失		
固定資産除却損	3 9	3 89
固定資産売却損	4 2	4 26
投資有価証券売却損	-	2
減損損失	150	579
抱合せ株式消滅差損	7	838
厚生年金基金脱退損失	65	-
ゴルフ会員権評価損	28	-
特別損失合計	264	1,534
税引前当期純利益	4,904	4,933
法人税、住民税及び事業税	1,555	2,311
法人税等調整額	145	10
法人税等合計	1,700	2,321
当期純利益	3,203	2,612

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		57,354	68.2	62,862	67.4
労務費		15,906	18.9	18,016	19.3
経費		10,872	12.9	12,336	13.2
売上原価		84,133	100.0	93,215	100.0

(注) 主な内容は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
租税公課 (百万円)	4,262	4,774
賃借料 (百万円)	1,952	2,194

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,828	2,487	8,446	10,934	12	7,812	7,824
当期変動額							
剰余金の配当						896	896
当期純利益						3,203	3,203
自己株式の取得							
自己株式の処分			11	11			
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）							
当期変動額合計			11	11		2,307	2,307
当期末残高	2,828	2,487	8,457	10,945	12	10,119	10,132

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,469	20,118	320	320	20,438
当期変動額					
剰余金の配当		896			896
当期純利益		3,203			3,203
自己株式の取得	2,838	2,838			2,838
自己株式の処分	125	136			136
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）			199	199	199
当期変動額合計	2,713	394	199	199	594
当期末残高	4,182	19,723	120	120	19,844

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,828	2,487	8,457	10,945	12	10,119	10,132
当期変動額							
剰余金の配当						878	878
新株の発行	2,958	2,958		2,958			
当期純利益						2,612	2,612
自己株式の取得							
自己株式の処分			1,401	1,401			
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	2,958	2,958	1,401	4,359		1,733	1,733
当期末残高	5,786	5,445	9,858	15,304	12	11,852	11,865

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	4,182	19,723	120	120	19,844
当期変動額					
剰余金の配当		878			878
新株の発行		5,916			5,916
当期純利益		2,612			2,612
自己株式の取得	0	0			0
自己株式の処分	3,355	4,756			4,756
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			30	30	30
当期変動額合計	3,355	12,406	30	30	12,436
当期末残高	827	32,129	150	150	32,280

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

構築物 3～45年

工具、器具及び備品 2～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

のれん

個別案件ごとに判断し、その金額の重要性が乏しい場合を除き、20年以内の合理的な期間で定額法により償却しております。

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法

4. 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還期間にわたり定額法により償却しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えて、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

6. その他財務諸表等作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

ただし固定資産に係る控除対象外消費税等は繰延処理し、法人税法に規定する期間により償却しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取保証料」(前事業年度25百万円)は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

- 1 関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	422百万円	143百万円
短期金銭債務	3,815	3,521

- 2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行15行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額の総額	11,500百万円	11,500百万円
借入実行残高	500	100
差引額	11,000	11,400

(損益計算書関係)

- 1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	18百万円	19百万円
営業費用	666	781
営業取引以外の取引高	155	92

- 2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	百万円	0百万円
その他	0	0
計	0	1

- 3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	6百万円	68百万円
その他	2	20
計	9	89

- 4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	2百万円	12百万円
土地	-	13
その他	0	0
計	2	26

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式26,798百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式29,076百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
賞与関連費用	505百万円	565百万円
資産調整勘定	77	44
減損損失	354	356
資産除去債務	130	144
子会社株式評価損	10	13
未払事業税及び事業所税	64	124
貸倒引当金	35	33
損失性引当金	43	-
一括償却資産	-	57
その他	44	37
繰延税金資産小計	1,266	1,377
評価性引当額	342	355
繰延税金資産合計	923	1,021
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	55	53
その他有価証券評価差額金	53	66
その他	4	4
繰延税金負債合計	113	124
繰延税金資産(負債)の純額	810	896

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	609百万円	725百万円
固定資産 - 繰延税金資産	200	170

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった
主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.9%	30.9%
永久に益金又は損金に算入されない金額	0.2	0.5
住民税均等割	3.4	3.5
のれん償却額	6.6	10.4
評価性引当額の増減	1.1	0.1
抱合せ株式消滅差損益	2.6	5.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.1	0.3
その他	2.4	3.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.7	47.1

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)
有形固定 資産	建物	8,370	1,175	456 (28)	421	9,089	5,052
	構築物	594	95	17 (0)	36	672	491
	車両運搬具	108	35	18 ()	20	125	79
	工具、器具及び備品	4,285	1,253	386 (17)	563	5,153	3,613
	土地	2,140	436	38 ()		2,538	
	リース資産	5		3 ()	0	1	1
	建設仮勘定	13	3	13 ()		3	
	有形固定資産計	15,519	2,999	935 (46)	1,042	17,583	9,237
無形固定 資産	のれん	15,681	2,659	1,169 (527)	1,135	17,172	7,280
	ソフトウェア	2,027	171	220 (3)	220	1,978	1,483
	その他	114	3	3 ()	1	113	7
	無形固定資産計	17,823	2,834	1,393 (531)	1,357	19,264	8,771

(注) 1. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 当期増加額には、株式会社セントフォローカンパニー他5社との合併等による増加額が次のとおり含まれております。

建物	668 百万円
構築物	77 百万円
車両運搬具	9 百万円
工具、器具及び備品	361 百万円
土地	383 百万円
のれん	2,659 百万円
ソフトウェア	40 百万円
その他	0 百万円

3. 上記以外の当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

建物	当期開局店舗	202 百万円
工具、器具及び備品	当期開局店舗	149 百万円

4. 当期首残高及び当期末残高は、取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	116	4	10	110
賞与引当金	1,335	1,503	1,335	1,503
偶発損失引当金	142		142	

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り請求	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。http://www.qol-net.co.jp/ やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第25期) (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)平成29年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第26期第1四半期) (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)平成29年8月14日関東財務局長に提出

(第26期第2四半期) (自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)平成29年11月14日関東財務局長に提出

(第26期第3四半期) (自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)平成30年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成29年7月5日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書

平成29年10月31日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第7号の規定に基づく臨時報告書

平成29年12月8日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書

(4) 臨時報告書の訂正報告書

平成30年1月31日関東財務局長に提出

平成29年10月31日提出の臨時報告書に係る訂正報告書

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 6月25日

クオール株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 轟 芳 英

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊 藤 孝 明

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているクオール株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、クオール株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、クオール株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、クオール株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月25日

クオール株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 轟 芳 英

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊 藤 孝 明

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているクオール株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第26期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、クオール株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。